

會 員 名 簿

榎	本	誠
大	場	恒
加	藤	薫
金	谷	良
坂	本	惠
竹	内	佑利子
野	間	一
廣	田	律
復	本	一

編 集 後 記

*最近、国立国文学資料館をはじめとして、公私の図書館、あるいは個人の研究者から「麒麟」に関する問合せがふえている。地道な研究活動が徐々に評価されてきた結果であらう。学問の成果は、一朝一夕にあがるものではない。二十年、三十年と地道な努力を続けた結果としての論文であり、著作である。「麒麟」も、スタッフの努力によって、やっと七年目に漕ぎ着けたところである。さらに地道な努力を重ねていくのではない。学問に華やかさは無用である。

*人文科学も学問である以上、実証性が、不可欠の要素である。今回は、全四篇と、本数はやや少ないが、いずれも資料に深くかかわった論考となった。資料と深くかわるおのことによって、自ずと不易性を獲得することになる。

*「麒麟」は、神奈川大学経営学部に所属する人文科学系教員の研究の砦であるが、門戸は広く全教員に開放されている。興味ある諸賢は、奮って参加されたい。ただし、質の高い論考が要求されている。

*今回その門戸を叩いて下さったのが坂本恵氏である。早速、論考を寄せられた。氏は、日本語学を専攻されている。

*それぞれの論考が、学界（学会）でいかに評価されるか。大いに楽しみである。